

米国会計学会（AAA）年次大会参加報告

ASBJ 専門研究員	きむら 木村	ひろと 寛人
ASBJ 専門研究員	はなざわ 花澤	のりひろ 徳裕
ASBJ 専門研究員	まきの 牧野	めぐみ

1. はじめに

2021 年 8 月 2 日から 8 月 5 日にかけて、米国会計学会（American Accounting Association; AAA）の年次大会がバーチャルカンファレンス形式で開催された。企業会計基準委員会（ASBJ）からは、川西副委員長のほか筆者が参加した。

2. 年次大会の概要

AAA 会長の Elaine Mauldin 氏により開会の挨拶が行われ、昨年に引き続きバーチャルとなった今回のカンファレンスには、1,600 名以上が参加していることが紹介された。年次大会の期間中は、Plenary session 及び参加するセッションを各参加者が選択する Concurrent session が実施された。以下、参加したセッションの一部の概要をご報告する。



3. 参加した主なセッション

(1) Plenary sessions

① Leadership, Diversity, and Systemic Racism

開会のセッションとして Ashleigh Shelby Rosette 氏（デューク大学）が登壇した。講演では、誰もがステレオタイプによる認知を行い、バイアスを有していること、これらが構造的人種差別に影響を与えていることが紹介された。また、組織がダイバーシティを達成するためには、これらを理解し、組織が明確な目標を設定することが必要であると説明された。

② Be The Thought Leaders

2日目の全体セッションとして Jennifer R. Joe 氏（デラウェア大学）が登壇した。講演では、思想的リーダー（thought leader）にはさまざまな定義があるが、それらに共通するものとして、他人を鼓舞し、影響を与えるアイデアを生み出すことができるパイオニアであり、他人にインスピレーションや影響を与え、立場を公言する人のことを指すことが紹介された。そのうえで、真の研究者としてその使命と価値観を果たすために、（聴衆者である）大学教員のそれぞれが会計界の思想的リーダーになることが重要であることなどが紹介された。

③ Why It Is Essential to Bring Critical Thinking Across the Accounting Curriculum

3日目の全体セッションは、Linda Elder 氏（Foundation for Critical Thinking and Center for Critical Thinking）が登壇し、会計学におけるクリティカル・シンキングの必要性について講演した。会計の世界においては、会計の核となる概念を学び、会計の論理を分解して評価することの重要性が説かれ、すべての事象には論理があり、その論理を分解する術を知ること、物事を理解する能力に自信を持てるようになることの説明がなされた。

(2) Concurrent sessions

① Accounting for an Ever-Changing World: Panel Discussion of the Upcoming Joint Conference of the FASB, IASB and TAR (パネル・セッション)

本パネル・セッションのモデレーターは、Tanya Paul 氏（米国財務会計基準審議会（FASB））、パネリストは、Christine Botosan 氏（FASB）、Anne McGeachin 氏（国際会計基準審議会（IASB））及び Robert Knechel 氏（フロリダ大学）であった。本パネル・セ

ッションでは、FASB、IASB 及び AAA の共催で 2022 年 11 月に開催が予定されているカンファレンス「Accounting for an Ever-Changing World」の紹介が行われた。

本カンファレンスでは、収益認識、リース、金融商品の基準書に関する学術研究の募集を行っており、本カンファレンスの参加者による学術研究報告の提出に資するため、各基準書の適用後レビューで議論されている事項の紹介等が行われた。

② FASB/IASB/SEC Update (パネル・セッション)

本パネル・セッションのモデレーターは、Daniel Wangerin 氏（ウイスコンシン大学マディソン校）、パネリストは、Christine Botosan 氏（FASB）、Paul Munter 氏（米国証券取引委員会（SEC））及び Mary Tokar 氏（IASB）であった。このパネル・セッションでは、FASB の Botosan 氏及び IASB の Tokar 氏により、FASB 及び IASB の最近の会計基準設定活動と進行中の基準設定プロジェクトの紹介が行われた。また、SEC の Munter 氏からは、直近の SEC の活動に関する紹介が行われた。その後、参加者との質疑応答が行われ、会計基準のコンバージェンスに関する FASB と IASB の共同プロジェクトが議論された。

③ Real Effects of Mandatory Disclosure

(資産計上対開示：オペレーティング・リースの資産計上が経営者によるリースの判断に与える影響)

Topic 842「リース」の導入によるオペレーティング・リースの資産計上が、企業の経営者によるリース利用の判断に影響があるかどうか研究された。その結果、オペレーティング・リースの減少が確認されたことが報告された。

④ Informativeness of Non-Earnings Information

(従業員の性別による地位の差と企業の将来業績との関連性)

職場では、女性は男性に比べて高い報酬の地位に就く可能性が低いといわれているが、従業員データを用いた検証によると、その傾向が強い企業ほど将来の業績が振るわず、特に人的資源への依存度が高い企業ほど、その関連性が高かったという研究結果が紹介された。

⑤ International Integrated Reporting

(石油・ガス産業の非財務情報開示に対するEU指令の影響)

EU指令が石油・ガス産業の非財務情報開示の水準にポジティブな影響を与えており、これに伴い、非EU企業についても、EU指令導入後に非財務情報開示を大幅に増やしている傾向がみられることなどに関する研究論文が紹介された。

⑥ IFRS Effects

(国際化に伴う会計基準の任意適用：日本の多国籍企業の事例)

IFRS基準及び米国会計基準 (US GAAP) のいずれの任意適用も認められている日本において、企業の国際化の度合いとIFRS基準及びUS GAAPの任意適用の関係について、日本の

多国籍企業を対象とした研究を行い、外国人株主比率が高い企業ほどIFRS基準よりもUS GAAPの任意適用が多い傾向にあり、外国人株主はUS GAAPの採用を好むことを示唆するという研究論文が紹介された。

⑦ Corporate Disclosure I

(記述情報の初度開示の際に基準設定主体のガイダンスを模倣することの影響)

企業が新たな会計基準を初めて適用して記述情報の開示を行う際に、FASBのガイダンスを模倣することにより、企業固有の情報が少なく、市場参加者に対しては有用な情報を与えないとする一方、基準によっては、模倣することによりSECからのコメント・レターの数を少なく抑えられ、企業が恩恵を受けていることを示唆するいくつかの証拠が得られたとする研究論文が紹介された。

⑧ Non-GAAP and Earnings Disclosures

(非GAAPは、新たなGAAPか)

特定の損益項目を除外する非GAAP業績指標の開示は増加傾向にあり、除外項目の情報開示の透明性を高めることが、投資家への有用な情報開示につながる可能性があるとする研究論文が紹介された。

⑨ Managerial Effects

(知識がもたらす能力：経営者の経歴とのれんの減損)

経営者の経歴 (本論文では、教育的背景、財務に関する経験及び海外経験を研究範囲として設定している。) とのれんの減損との関係に注目し、のれんの減損は一般的に累積異常リターン (Cumulated abnormal return)¹ にマイナスの影響を与えるが、経営者の経歴が豊富なほどマイナスの影響を緩和できるとする研究結果が紹介され、経歴が豊富な経営者はのれんについ

ての理解が深く、適切なタイミングでのれんの減損を計上することができ、投資家の信頼を得られるとする研究論文が紹介された。

⑩ Preparers and the Financial Reporting System

(年金債務を認識するか開示するかによって信用格付に影響を与えるか：日本における証拠)

年金債務を開示する場合と認識する場合とで、信用格付に影響があるかどうかについて、日本における研究結果が報告された。研究結果としては、開示と認識の影響が同程度であり、信用格付機関が開示された年金情報を信用格付に組み込んでいることを示唆していることが報告された。

⑪ Strategic Disclosure

(投資家の心理状態の戦略的な利用)

天候と企業の業績発表の関連性に関する研究で、経営者は晴れの日が悪い情報を開示する傾向が強く、曇りの日から晴れの日決算発表日を変更する可能性が高いこと、また、これによって市場のネガティブな反応が緩和されることが確認され、経営者は情報開示にあたり投資家の心理状態も考慮に含めていることが示唆されるという研究論文が紹介された。

⑫ Financial Reporting Quality and Regulatory Enforcement

(SEC 提出書類審査プロセス：会計研究からの洞察)

SEC は、投資家に提供する情報の質を向上させる目的で、重大な欠陥がある可能性のある

開示や会計処理を特定するために、提出書類を審査しているが、この SEC 提出書類審査プロセスに対する社会的な関心の高まりと、審査する SEC に対応する企業の双方に多大なコストがかかることから、このプロセスの決定要因と結果を検証する文献が増えていることが紹介された。そのうえで、先行研究で評価されていない要因を特定し、今後の学術研究への示唆を提供するために、SEC 提出書類審査プロセスの制度的特徴の詳細が紹介された。

⑬ Topics in Mandatory Disclosure

(Topic 606「顧客との契約から生じる収益」における収益の分解開示は、財務諸表の有用性を高めたか)

Topic 606 に基づく収益の分解開示により、予測価値に関する便益がある一方で、アナリストの情報処理コストの増加も確認されたことが報告され、処理コストが分解開示のメリットを打ち消す可能性について報告された。

⑭ Regulators and Accounting Standards (利害関係者の関与と効果的な基準設定)

現代の基準設定活動において、デュー・プロセス制度を支える各機関が果たす役割の重要性が高まっていること、及び基準設定主体が効果的な基準設定を行うことに資する今後の研究課題が紹介された。

⑮ Nonfinancial Disclosure I

(バイオテクノロジー業界における均衡の取れた開示)

バイオテクノロジー企業を対象とした研究により、開示ルールに従ってネガティブな情報を

1 企業の活動に関する何らかの情報の発表がその企業の市場価値にどのような影響を与えるかという問題を分析する方法（イベント・スタディ）に関する用語で、企業価値に影響をもたらすイベントが発生したときには、そのイベントがなかったときのリターンに加えて、イベント分の追加的なリターン（異常リターン）が発生するが、このイベント発生日前後の異常リターンを合計したものをいう。

開示する企業は併せて自主的にポジティブな情報を開示する傾向にあることが確認され、その場合には市場のネガティブな反応が弱まる傾向にあったことが研究結果として紹介された。

4. おわりに

来年の年次大会は、サンディエゴで開催される予定であることが AAA のサイトに掲載されている。